



川崎市医師会 市民広報

Medical & Physical Magazine

ほほえみがえし

2005.WINTER

VOL.3

この雑誌は配布用のものです。御自由にお持ちください。

特集1●
日本の医療に
株式会社の参入は必要か

特集2●
急病になっても、
あわてずに落ち着いて。

医療最前線
健康ONE POINT
おしえて、せんせい。Q&A
休日急患診療所



急病になっても、あわてずに落ち着いて。

①平日昼間

普段通院している「かかりつけ医」を受診して下さい。「かかりつけ医」のいない方は、川崎市救急医療情報センター（以下情報センター）、もしくはホームページ「かわさきのお医者さん」をご利用下さい。

情報センターでは、二十四時間体制でオペレーターによる医療機関のご案内と「コンピュータシステムによる音声・FAX案内を行っています。」

インターネットを利用される方は、「かわさきのお医者さん」にアクセスして下さい。iモードでもアクセスすることができます。

②かかりつけ医の休診日

情報センター、「かわさきのお医者さん」をご利用下さい。あらかじめ、かかりつけの先生に、休日や夜間にはどうしたらいいか聞いておくのも賢い方法です。

③休日、祝日の昼間

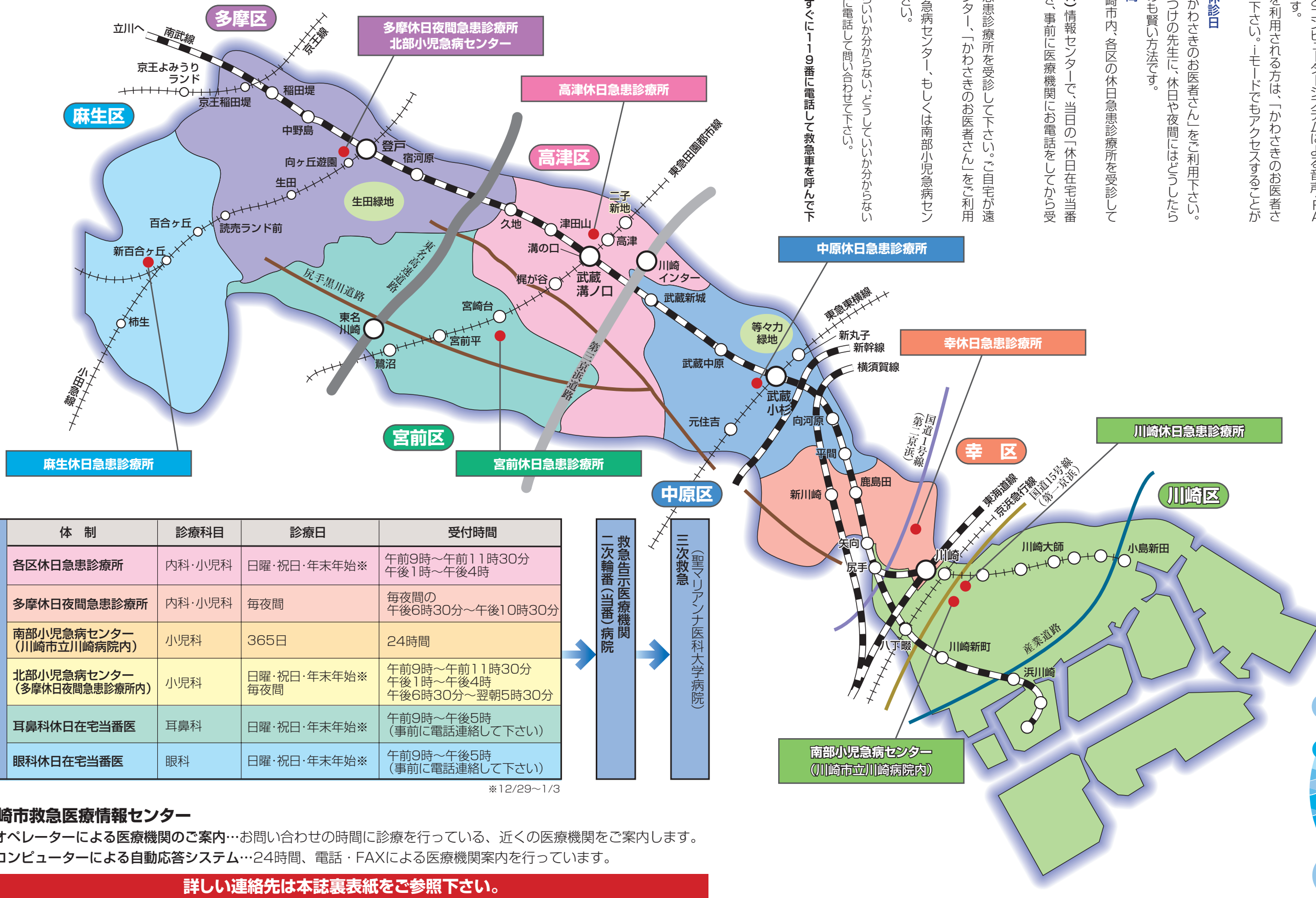
（内科・小児科）川崎市内、各区の休日急患診療所を受診して下さい。

（耳鼻咽喉科・眼科）情報センターで、当日の「休日在宅当番医」を確認して頂き、事前に医療機関にお電話をしてから受診して下さい。

④夜間

（内科）多摩夜間急患診療所を受診して下さい。ご自宅が遠方の方は、情報センター、「かわさきのお医者さん」をご利用下さい。
（小児科）北部小児急病センター、もしくは南部小児急病センターを受診して下さい。

*どの科を受診したらいいかわからない、どうしていいかわからないときは、情報センターに電話して問い合わせて下さい。
症状が重いときは、すぐに119番に電話して救急車を呼んで下さい。



おしえて、せんせい。



平成八年十月一日から施行されている改正労働安全衛生法において、産業医は、労働者の健康管理等を行うのに必要な医学に関する知識について一定の要件を備えた医師でなければならぬとされました。要件を満たすのは、厚生労働大臣の定める研修の修了者と労働衛生コンサルタント試験の保健衛生区分の合格者などです。川崎市医師会産業医部会は、この産業医の川崎市医師会の主催する研修会（春秋の二回）をはじめとして労働者の健康管理等を担うために新たに発足した部会です。ところで、近年、めまぐるしく企業は変化し、雇用形態も大きく変わってきております。これにともない不安やストレスを強く感じる労働者や過労死も増えております。職場におけるメンタルヘルス対策として、まず、心の異常を早く知ることが重要であると考えております。

Q：中国へ出向の予定ですが、このための予防接種はどのようにしたらよいでしょうか？

A：現在、主に行なわれている予防接種は、表のように、A型肝炎ワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風トキソイドの三種類です。接種回数に關しては、B型肝炎ワクチンは三回ですが、A型肝炎ワクチン、破傷風トキソイドは、以前に接種を行ったか否か、また、滞在期間を考慮して決めております。



但し、B型肝炎は、半年後に三回目の接種が終わるため、急に海外出張が決まった場合には、出張直前に接種したワクチンの効果はえられないと考えられます。B型肝炎ウイルスは、感染力が強く、感染者の血液に触れただけで、急性肝炎を発症することがあるので、ワクチンを接種した後も充分注意が必要です。また、日本脳炎の流行地では、日本脳炎ワクチンの接種も必要です。

ところで、中国以外で、例えばアフリカなどに行かれる場合、黄熱病のワクチンの接種が必要になります。が、一般の診療所では扱っておりません。このように、接種がすぐ受けられないワクチンがあることや、直前の接種では予防効果をあまり期待できない場合があるため、厚生労働省や検疫所へ問い合わせ、その土地の情報入手して早めに接種を受けることも重要と思われま。

<表> 肝炎ワクチンと破傷風トキソイドの標準投与スケジュール (1回0.5mL)

A型肝炎ワクチン	2～4週間隔で2回筋肉内又は皮下に接種し、更に初回接種後24週を経過した後に追加接種する。 (16歳以上を対象)
B型肝炎ワクチン	4週間隔で2回、更に、6ヶ月を経過した後に筋肉内又は皮下に接種する。
破傷風トキソイド	4～8週間隔で筋肉内又は皮下に接種し、更に6ヶ月から18ヶ月を経過した後に追加接種する。

あとがき

本紙も3号を迎えました。俗に3号を越えると、雑誌として永続性が約束されたかのように思われています。更に強い声援をお願い致します。本号では、災害訓練を取り上げました。新潟県中越地震も、活断層上の川崎市にとって他人事ではありません。新潟地方の一日も早い復旧を願ってやみません。

募集中

「特集記事で取り上げてほしい」「こんな時はどうすればいいの？」皆様のご要望をお待ちしています。

〒210-0012 川崎市川崎区宮前町8-3
川崎市医師会会報広報委員会 ほほえみがえし係
TEL.044-222-2110(代) FAX.044-233-8802
Email ishi-kai@kawasaki.kanagawa.med.or.jp

「目の愛護デー」行事報告

10月10日は「目の愛護デー」、1年に1度自らの目の健康について考える日と言われています。川崎市眼科医会では、川崎市・川崎市医師会の協力を得て、毎年10月に「目の愛護デー」行事として、市民の方々に「目の無料相談」・「目の健康講座」を行っております。平成16年度も南部と北部の二地区で行い、多くの市民の方々が参加して下さいましたので、その結果をご報告致します。

まず川崎南部地区「目の愛護デー」行事は10月11日(月)の体育の日に川崎健康・検診センター(タワーリパーク18F)で行われました。「目の無料相談」は午前10時～正午・午後2時～4時の午前・午後2時間ずつで、眼科医16名が市民の相談に当たりました。午前105名、午後154名で合計259名の市民の方が相談に来て下さいました。また「目の健康講座」は午後1時より1時間かけて行われました。本年度は「目の成人病」について高野繁川崎市眼科医会長が講演し、48名の市民が聴講して下さいました。

また北部地区では10月17日(日)に宮前区民祭会場(川崎市中央卸売市場北部市場)で「目の無料相談」が行われました。午前9時～午後3時までの6時間に渡り、眼科医12名が市民291名の相談に当たりました。

この事業は10月10日の「目の愛護デー」にちなんで、20年以上続けているものです。今後も末長く行っていくつもりですので、多くの市民の方々に参加して頂きたいと思っております。

目の無料相談
(10月11日)

災害対策

川崎市医師会には災害発生に備え、医療救護活動を行う「川崎市医師会医療救護隊」が設置されています。

毎年「防災の日」の9月1日に、地域の災害対応の向上を目指して行われる川崎市総合防災訓練に参加しています。今年も、マグニチュード7の地震発生を想定し、災害対策本部より川崎市医師会に防災行政無線で連絡が入り、医師が出動しました。JR川崎駅周辺において模擬傷病者10数名の救護を行いました。

また、春と秋の年2回、東京国際空港において航空機のエンジンが炎上し、機体に燃え移ったことを想定した東京国際空港航空機事故消防救難訓練にも参加しています。今年は10月21日(木)に秋の訓練が行われ、32団体800人が参加しました。川崎市医師会からも医師、看護師合わせて約20名が参加し60名の模擬傷病者の救護に当たりました。

川崎市総合防災訓練
(9月1日)東京国際空港航空機事故消防救難訓練
(10月21日)

医療最前線

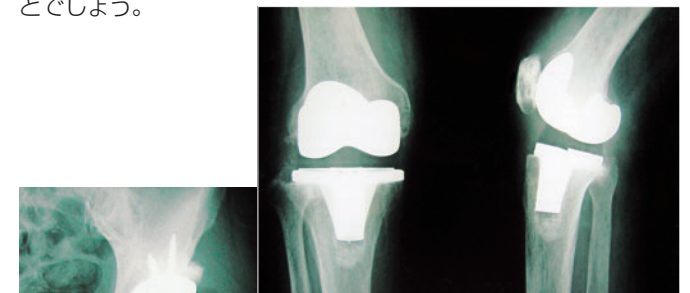
人工関節

関節とは、骨と骨とが可動的に接触する部分で、その表面は軟骨で被われていて、関節腔には少量の滑液があり、スムーズに動くようになっています。

私たちは日頃、特に何の問題もなく、立ったり座ったり、歩いたり走ったりと自由に体を動かすことができます。これは体のあちこちの関節がスムーズに動いてくれているからです。しかしだんだん年をとるにつれて、関節の表面の軟骨がすりへってきて、変形が進み、痛みや関節の動きの悪さが目立つようになります。また関節リウマチや先天性股関節脱臼後の変形、外傷、腫瘍や骨頭壊死(大腿骨の頭が腐ってくる病気)などの病気によっても同様のことが起こります。その結果、日常生活に支障が出てきて苦痛を伴うようになります。いろいろな治療を行っても改善がみられずに病状が進行する場合には、人工関節手術が行なわれることとなります。

人工関節手術は、1890年にドイツのグリニックが膝関節に対して、象牙を使って行なったのが初めてとされています。それから100年余り、様々な材質(ガラス、アクリル、ステンレス等)や、デザインのものが開発され、試行錯誤を繰り返しながら改良が加えられ、今日に至っています。

適応となる部位は、股関節(足のつけ根の関節)、膝関節、肩関節、肘関節、手指の関節、足関節などがあげられます。人工関節は骨への固定に骨セメントやスクリューを使い、関節の表面には摩擦の少ないH.D.P(高分子ポリエチレン)を使ってきました。それでも長い年月の間に人工関節のゆるみや表面の磨耗という問題がしばしば起こり、再手術を余儀なくされることもあるため、例外はあるものの、適応年齢は概ね60才以上に限



人工膝関節



人工股関節

健康
ONE POINT

黒いものが飛んで見えたら



こんな経験はないでしょうか？明るい所で白い空や白い壁を見ていたら突然黒いものが飛んで見え、更に目を動かすとその黒いものが目の動きと一緒に移動することがあります。年をとってきたり、近視が強かったりする人に起こりやすいこの現象は、その飛んでいる黒いものが、まるで蚊に似ていることから飛蚊症(ひぶんしょう)と呼ばれています。

この飛蚊症の正体は、眼球の中の硝子体という透明でドロドロした液からなる場所の中の濁りで、医学的には硝子体混濁(しょうしたいこんだく)と言われています。何らかの理由で、その硝子体中の濁りにピントが合ってしまい、その濁りが黒い蚊のようなものとして我々の眼球に映るわけです。

この飛蚊症の多くの場合は、年を取ることにより生じてくるもので、放置しておいても問題ありません。しかし近視の強い人などで、特にこの飛蚊症がだんだん増えてくる場合には、その原因が網膜剥離(もうまくはくり)という放置すれば失明に至る怖い目の病気であることがあります。この病気は比較的起こりやすいものですが、早期に発見し、手術することにより最近では十分治療が可能となってきました。

もしも黒いものが飛んで見えたら、1度、眼科専門医を受診し、眼底検査を受けて下さい。そして放置しておいて良いものかどうかの確認をして頂きたいと思います。